

国語 第6学年 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「やまなし（第6学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第5学年と第6学年でこれまでに読んだ物語と、「描写」「表現の効果」「比喩や反復」をどこまで学習してきたか。宮沢賢治の作品を読んだことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、発言が偏る、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、叙述を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

作者の思いを一つの正解に決める書き方にしない。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喩や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう」教材名「やまなし（宮沢賢治）／【資料】イーハトーヴの夢（畑山博）」

2 単元目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き（(1)ク）、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)エ・オ）。文章を読んでまとめた意見や感想を共有して自分の考えを広げ、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、二つの場面を比べて物語全体を想像したり表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって、作品について考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、谷川の底の様子を「五月」と「十二月」の二つの場面で描いた宮沢賢治の物語であり、資料「イー

「ハトーヴの夢」は賢治の生き方や考え方を伝える文章である。二つの場面は、昼と夜、日の光と月の光、上から落ちてきたかわせみとやまなし、というように対になっていて、比べることで作品全体の姿がはっきりする。色や光を表す言葉、比喻や反復、作者が作った言葉が多く、学習指導要領第5学年及び第6学年の(1)ク「比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと」と、C(1)エの、物語を全体として具体的に想像したり表現の効果を考えたりする学習に向いている。子どもは第5学年から、登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉える学習(C(1)イ)をしてきた。本単元では、一つの場面の中の気持ちを追うのではなく、作品全体を見渡して、作者がこの二つの場面を並べた意味を考える。作品と資料を結び付けて考えをまとめる経験は、伝記や解説の文章と作品を合わせて読む読書(3)オ)にも生きる。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、二つの場面を同じ観点(時・光・色・上から来た物・かにの兄弟の様子・お父さんの言葉)で表に並べ、比べた結果から考えさせる。印象だけで作者の思いを語らせない。次に、作者が作った言葉や意味の決まらない言葉は、何を指すかを一つに決める話し合いにしない。その言葉からどんな感じを受けるかという表現の効果に話を向ける((1)ク)。そして、資料「イーハトーヴの夢」は作品を比べた後に読み、賢治の生き方や考え方を作品と結び付ける材料にする。資料の言葉を当てはめて正解を決めることはしない(C(1)オ)。単元の終わりに書く文章は、自分の考え・比べた表から挙げた根拠・資料との結び付けがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、表現の効果(比喻や反復、色や光の言葉)にも触れて根拠を挙げている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全8時間)

第1次 第1時：○全文を読み、不思議に思ったこと・心に残ったことを初めの感想に書く。○初めの感想を出し合い、単元の問い「作者は、二つの場面を並べたこの作品にどんな思いを込めたのか」と学習の進め方を決める。 評価：態①(初めの感想・観察)

第2次 第2時：○「五月」を読み、谷川の底の様子と、かにの兄弟の様子を想像する。○色や光を表す言葉、比喻や反復に線を引き、表現カードに書く。 評価：知①(表現カード)

第2次 第3時：○「十二月」を読み、同じように谷川の底とかにの兄弟の様子を想像し、表現カードに書き足す。

第2次 第4時：○二つの場面を、同じ観点(時・光・色・上から来た物・かにの兄弟の様子・お父さんの言葉)で比べる表にまとめる。 評価：知①(比べる表)

第2次 第5時(本時)：○比べる表を基に、二つの場面の違いと表現の効果を考え、題名が「やまなし」である理由について自分の考えをもつ。 評価：思①(ノート)

第2次 第6時：○資料「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方を捉え、作品の中で結び付けられる所に印を付ける。

第3次 第7時：○単元の問いへの自分の考えを、「考え→比べる表から挙げた根拠→資料との結び付け」の順で文章にまとめる。 評価：思②(文章) 態①(文章の見直し)

第3次 第8時：○グループで文章を読み合い、自分の考えと同じ所・違う所に付箋を貼り、考えが広がったことを書く。○学習を振り返る。宮沢賢治のほかの作品を紹介し、並行読書が続ける。 評価：思③(付箋・振り返り) 態①(振り返り)

6 本時の指導(5/8)

(1) 本時の目標

「五月」と「十二月」を比べた表を基に、二つの場面の違いと表現の効果を考え、題名が「やまなし」である理由について自分の考えをもつことができる。(C(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時の比べる表を見て、時・光・上から来た物の違いを確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「かにの兄弟が主に出てくる話なのに、題名が「やまなし」なのはなぜでしょう」

【めあて】二つの場面を比べて、題名が「やまなし」である理由を考えよう。

予想される児童の反応：・五月は昼で、十二月は夜。

・五月はかわせみが来て、十二月はやまなしが来た。

・やまなしは十二月にしか出てこない。

指導上の留意点：・比べる表を黒板に貼り、「上から来た物」の行を色チョークで囲んでおく。

・題名についての予想は、この時点では短く聞くだけにする。

【展開】

学習活動：3 「上から来た物」を比べる。

○「かわせみが来た時と、やまなしが来た時で、かのにの親子の様子はどのように違いますか」

4 一人で考え、ノートに書く。

○「色や光を表す言葉は、二つの場面でどう違いますか。その違いから、どんな感じを受けますか」

5 グループで考えを伝え合う。表のどの行を根拠にしたかを必ず言う。

6 全体で、題名の理由についての考えを出し合い、根拠の行ごとに分けて板書する。

予想される児童の反応：・かわせみの時は、兄弟はこわがって、お父さんも心配している。

・やまなしの時は、親子についていって、いいにおいと喜んでいる。

・五月は日の光で明るいが、こわいことが起きる。

・十二月は月の光で、静かで落ち着いている。

・比喩が多くて、谷川の底の景色が目浮かぶ。

・やまなしは、かのにの親子に恵みを与える物だから題名にした。

・こわい五月と、穏やかな十二月を比べると、やまなしの方が作者の言いたいことに近い。

・どちらも上から来るのに、命を取る物と、命を養う物で違う。

指導上の留意点：・気持ちや印象を言う前に、必ず表の叙述を確かめる順にする。

・比喩に気付いた子には、比喩を使わない言い方と比べて、受ける感じの違いを言わせる。

・作者が作った言葉が何を指すかの言い合いになったら、「その言葉からどんな感じを受けるか」に戻す。

・読むのが苦手な子には、二つの場面の「上から来た物」の部分だけの拡大本文（ルビ付き）を渡す。

・早く終わった子には、二つの場面で兄弟の会話がどう変わったかを考えさせる。

・叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

【まとめ】

学習活動：7 題名が「やまなし」である理由を、自分の言葉でノートに書く。

（型）「題名が「やまなし」なのは、…だからだと考える。それは、五月の…と十二月の…を比べると…から分かる」

8 振り返りを書く。

指導上の留意点：・考えは一つに決めず、根拠の行を挙げていれば認める。

・振り返りは「比べて気付いたこと」と「友達の考えを聞いて付け加えたいこと」の二つで書かせる。

・次時は資料を読み、賢治の生き方や考え方と作品を結び付けることを伝える。

評価：思① 二つの場面を比べて物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（ノート）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に比べる表（上の段に「五月」、下の段に「十二月」。列は右から時・光・色・上から来た物・かのにの兄弟の様子・お父さんの言葉）。「上から来た物」の列（かわせみ・やまなし）を色チョークで囲み、その横に、かのにの親子の様子の違いを子どもの言葉で書く。中ほどから左に、子どもの考え（題名の理由）を、根拠にした列ごとに分けて並べ、表の列と線で結ぶ。左端にまとめの文の型と、振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

